

日本建築仕上材工業会登録 http://www.nsk-web.org/	
登録番号	0508005
放散等級区分表示	F☆☆☆☆

# リフレエース



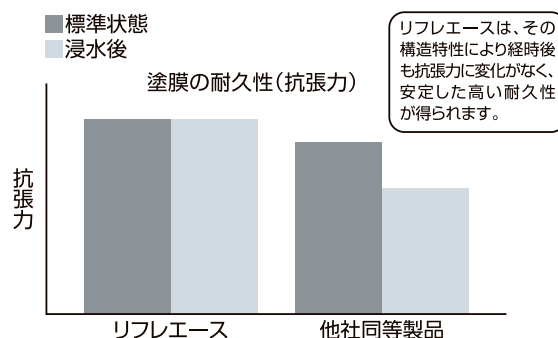
## 神東塗料

JIS A 6909 建築用仕上塗材 可とう形改修塗材E

### 特 長

#### ■ 耐久性に優れた塗膜

リフレエースはJIS A 6909可とう形改修塗材Eでありながら、一般的なアクリル系と比べ、長期耐久性に優れた高グレードのエポキシ系微弾性フィラーです。エポキシ樹脂とアクリル樹脂を化学結合により一体化することでIPN構造を形成します。このIPN構造により初期の塗膜性能を長期維持し、躯体を保護します。



#### ■ 抜群の付着力

親和力の強いエポキシ樹脂とIPN構造のダブル効果で、安定した付着力が得られます。様々な下地へ強固に密着し、躯体を保護します。

#### ■ 経済性・作業性

1液タイプのため、混合の手間が省け材料ロスも少なくなります。また塗装時のスパッタリングが少ないため、材料ロスが少なく、経済的で作業性にも優れた材料です。

#### ■ 省工程

シーラーレスのため、工程短縮が可能です。

#### ■ 適用下地、工法、デザイン、上塗選択がオールマイティー

適用下地	多種類の旧塗膜(リシン、Eタイル、単層弾性、弾性タイル、マスチック他)、コンクリート、モルタル、ALC、押出成形板等(除:焼付ふっ素樹脂仕上げ)
適用工法	多孔質ローラー、中毛ローラー
適用デザイン	新パターンの設定(厚付け仕上げ)、既存パターンの復元(薄付け仕上げ)
適用上塗	フロンティアシリーズ、水性ハイテントップ、シントー水性グランツシリーズ、シントーハヤブサシリーズなど

※新設面および、リシンやセメント系厚付け材など吸い込みが著しい場合は、下塗材が必要です。

新設の押出成形板の場合は、下塗材として浸透性エポキシシーラーを使用してください。

※既存膜が溶剤可溶性塗膜(アクリル樹脂塗料等)で、現状パターン仕上げ(中毛ローラー塗装)仕様の上塗りに溶剤系上塗り塗料で仕上げる場合には、塗膜のリフティング(チヂミ)などの不具合が発生することがありますので避けてください。

※上塗りに溶剤、弱溶剤系の塗料を使用する場合は、塗装間隔は16時間以上空けてください。

### 荷 姿

塗料名	容量	色	一般名
リフレエース	16kg	白色	複合架橋形水系エポキシ微弾性下地調整塗材

## 塗装仕様例(改修)

工程	塗料名 (希釈剤)	希釈率 (%)	標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (20℃)	塗装方法
----	--------------	------------	---------------------------------	-----	---------------	------

### ●改修例1(さざ波仕上げ、アクリルシリコン樹脂塗料仕上げ)

下地調整	高圧洗浄等で被塗物表面の劣化塗膜や汚染物を除去し十分乾燥させる。 旧塗膜剥離面は主材により修復する。					
主材塗	リフレース (水道水)	1~5	0.8~1.2	1	16時間~7日	多孔質 ローラー
上塗-1	シントー水性グラントツSI (水道水)	10~20	0.12~0.15	1	3時間以上	はけ 中毛ローラー
上塗-2	シントー水性グラントツSI (水道水)	10~20	0.12~0.15	1	—	はけ 中毛ローラー

注) ・リシン面など吸い込みが著しい場合には、下塗りに「シントー水性Mシーラー」を使用してください。

・「高断熱型外壁」に塗装する場合は、下地の状態(著熱、水分を含む)により、不具合が発生することがありますので、弊社にお問い合わせください。

### ●改修例2(旧デザイン復元仕上げ、アクリルウレタン樹脂塗料仕上げ)

下地調整	高圧洗浄等で被塗物表面の劣化塗膜や汚染物を除去し十分乾燥させる。 旧塗膜剥離面は主材により修復する。					
主材塗	リフレース (水道水)	4~6	0.25~0.45	1	4時間~7日 <sup>※1</sup>	中毛 ローラー
上塗-1	シントー水性グラントツUP (水道水)	5~10	0.15~0.20	1	3時間以上	はけ 中毛ローラー
上塗-2	シントー水性グラントツUP (水道水)	5~10	0.15~0.20	1	—	はけ 中毛ローラー

注) ・リシン面など吸い込みが著しい場合には、下塗りに「シントー水性Mシーラー」を使用してください。

・既存膜が溶剤可溶性塗膜(アクリル樹脂塗料等)で、現状パターン仕上げ(中毛ローラー塗装)仕様の上塗りに溶剤形上塗り塗料で仕上げる場合には、塗膜のリフティング(チヂミ)などの不具合が発生することがありますので避けてください。

※1) 上塗りに溶剤、弱溶剤系の塗料を使用する場合は、塗装間隔は16時間以上空けてください。

## ご使用上の注意事項

### 現場塗装の一般的禁止事項

- 気温5℃以下のときは塗装を避けてください。気温が低くなりますと乾燥が非常に遅くなります。低温時に塗装するときは加温対策が必要です(気温15~30℃の範囲が良好です)。
- 湿度85%RH以上のときは塗装を避けてください。被塗面の水分によって、塗膜の乾燥進捗が悪くなり、期待する塗膜性能を発揮できないことがあります(40~70%RHが良好です)。
- 被塗面に結露があるときは塗装を避けてください(特に朝夕の結露には注意してください)。
- 塗装後数時間後に降雨、降雪が予想される場合は塗装を避けてください。
- 強風、砂ぼこりが多いときは塗装を避けてください。砂塵、海塩粒子などが塗装中、乾燥中に付着すると塗膜性能低下、仕上がりが不良となります。
- コンクリート、モルタルへの塗装の場合、表面含水率10%(デジタル水分計の場合は含水率5%)、pH10以上のときは塗装を避けてください。コンクリート、モルタルが未乾燥状態のときは、アルカリ成分が多く、塗膜の付着性および仕上がりに悪影響を与えます。
- 施工部位などにより、低汚染性が十分に発揮されない場合がありますので、ご注意ください。
- 軽量モルタル、窯業系サイディング、発泡ウレタンを使用した外壁材などの蓄熱されやすい建材に塗装する場合は、既存膜の種類・下地の状態(蓄熱、含水など)の影響で不具合が発生することがあります。
- 新設の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。また、旧塗膜が脆弱な場合にもシーラーが必要な場合がありますので、予めご相談ください。
- 押出成形セメント板、GRC面、フレキシブルボードなどは、下塗として、浸透性マイルドエポシーラー、浸透性エポキシシーラーを使用してください。
- たえず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をお願いします。
- ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面などの素地に巣穴や段差などがある場合は、セメント系下地調整材(樹脂入り)などで処理してください。
- シーリング面への塗装は、シーリング材の種類や材齢により塗膜の汚染、剥離、収縮割れなどの不具合を起こすことがあります。この場合、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、アンチプリーダーSを下塗りに使用するなど必要な処理を行ってください。
- 旧塗膜がスキンや高弾性(壁面防水材)の場合は適用できない場合がありますので、予めご相談ください。

※安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)を参照してください。

※必ず各塗料の個別カタログに記載している注意事項をご確認ください。

※ご不明な点に関しましては、弊社問い合わせ先までご連絡願います。

### 塗料の一般的取扱注意事項

- 指定品以外の他品種、他品名の塗料との混合は絶対に行わないでください。
- 塗料は使用する前に十分かき混ぜ均一な状態にしてください。多液形塗料の場合は、混合比に十分注意し、所定の割合で混合し均一になるまで十分にかき混ぜてください。また、小出しする場合は、必ずはかりを用い、正しい混合比で計量後、混合してください。
- 希釈率、塗装間隔などは、規定の数値を厳守してください。
- 開閉は原則として使用する直前に行い、開閉したものは、出来るだけその日のうちに使用してください。
- さげ缶に小分けする時は、十分にかき混ぜたものを小分けし、使用するさげ缶はきれいなものを使用してください。
- 残った塗料は常にフタをするよう心がけてください。
- 塗料の保管は、直射日光や雨風を避け、出来るだけ屋内倉庫に貯蔵、管理するようにしてください。
- 使用した塗装器具等は、直ちに水洗いしてください。

### 緊急時および応急処置

- 目に入った場合は、直ちに清潔な流水で15分以上洗眼し、出来るだけ早く医師の手当てを受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、石けん水でよく洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、出来るだけ早く医師の手当てを受けてください。
- 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなったときには、安静にし、必要に応じて、出来るだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだときは、出来るだけ早く医師の診察を受けてください。
- 容器からこぼれたときには、砂などを散布した後、処理してください。

くらし ゆたかに あざやかに 未来を創造するコーティング



神東塗料

本社 〒661-8511 兵庫県尼崎市南塚口町六丁目10番73号  
☎(06)6426-3355(代) FAX(06)6429-6188(代)

製品に関するお問い合わせ

北海道 ☎(0123)32-0431 FAX(0123)34-6199  
東北 ☎(022)285-7915 FAX(022)285-7813  
東京 ☎(03)5690-0544 FAX(03)5690-0553  
静岡 ☎(054)245-0135 FAX(054)247-4091

北陸 ☎(076)262-1305 FAX(076)262-1315  
名古屋 ☎(052)612-0293 FAX(052)612-0318  
大阪 ☎(06)6426-3763 FAX(06)6429-6268  
中国 ☎(082)264-6822 FAX(082)264-6821

四国 ☎(087)841-1251 FAX(087)843-3108  
九州 ☎(092)472-2222 FAX(092)473-5777

https://www.shintopaint.co.jp/

本カタログの内容・仕様等について予告なく変更することがあります。ご了承ください。